

2. 沼南通史の基本仕様について

資料 2

		従前案	平成30年度沼南通史編集会議(計2回)の協議結果	
概要説明		下記仕様は、平成28年度第1回柏市史編さん委員会(H28. 5. 3)における会議資料「柏市史執筆要項(案)」内『柏市史(沼南町史 通史編)』より。	決定事項	その他・備考
1 文章表記	1 内容表現	1)既刊行『資料集』の成果を踏まえ、一定の学術レベルを保ちつつ、市民に読みやすい工夫を加える。	左記従前案に同じ	
	2 文体	1)平易な口語体 2)「である」調 3)記述は論文調にならないようにする。		
	3 本文中の史料	1)原則は入れない。 2)不可避の場合、史料は2字下げ・文字ポイント1ポイント落とす。		できるだけ書き下し文にして要約で済むのは要約、引用時は出典情報明記
	4 本文中の注釈	1)原則として付けない。 2)やむを得ない場合も最小限にとどめる。		やむを得ない場合は巻末の参考文献として対応
	5 漢字・かな	1)本文は原則として常用漢字 2)現代仮名づかい 3)固有名詞はこの限りではない		人名も固有名詞
	6 専門用語	1)難解な専門用語の使用は可能な限り避ける 2)使用する場合はなるべく説明を加える 3)ルビを多用する		
	7 年号	1)元号優先 例)昭和二年(一九四七)		『柏市史』と同じ ○→二二 ×→二十二
	8 数字・単位	1)『柏市史』に準じる 表記例 原始古代中世編・近代編→四二・二(%) 近世編→四二・二(パーセント)		一文字の中に入れる方を採用 (左記表記例の原始古代中世編・近代編の方=%)
2 体裁	1 体裁	1)近世以降については日本史の概説や、その時代を概観する「序」などは「柏市史」(通史)に掲載しているため重複を避けて割愛。 2)(その他一般的には)「柏市史」(通史)に倣う	左記従前案に同じ	(意見)近現代の下限はいつまで? ⇒「合併まで」をリミット
	2 構成	1)「編」・「章」・「節」・「項(つり見出し)」 2)「編」 左1ページ取り(裏には活字) 3)「章」 ページの頭から	1)「編」・「章」・「節」・「つり見出し」(項は無し) ※奇数ページ発生により最終ページが見開き左ページで終わったら、右ページ側をコラム扱いとすることも今後検討・調整。	
	3 写真・図表等	1)見開き(P2)に原則として1~2点のつり見出し及び写真・図表を入れる。		
	4 判型	1)A5サイズ 2)縦書き	左記従前案に同じ	
	5 段組	1)1段組 2)50字×17行(850字)		
	6 ソフトカバーかハードカバーか(中の本)	未定	1)中の紙質は普通紙 2)ハードカバー製	
	7 函	1)紙函でカラーのカバー付き		
	8 巻末の検索(索引)	1)今後の検討課題	左記従前案に同じ	付表と合わせて要検討。(索引対象の言葉を検索・拾う→業者、索引対象を選ぶ→執筆者)
3 ページ割	1 外装	1)2分冊 2)箱は一つ	1分冊	
	2 ページ数	1)全P1350 内容構成は別紙のとおり 2)上巻P625 原始古代(考古) P350 古代中世(文献) P250 口絵・統計資料等 P25 3)下巻P725 近世 P300 近・現代 P400 口絵・統計資料等 P25	1)全P800 2)上下巻なしの1分冊(資料3のとおり)	
	3 色	1)上下巻とも口頭口絵P16分はカラー(計P32) 2)上下巻とも本文はモノクロ	左記従前案に同じ	(意見)目玉的なコンテンツをカラー扱い
	部数	未定	事務局判断	(意見)県内市町村、市内小中学校等への配布含む